

# 菊川市におけるGIGAスクール構想の方向性について

菊川市 教育文化部

## 1 構想の背景・目的

菊川市では、無線LANの整備は実施済みであり、5人に1台程度端末が整備されていることから令和3年度から令和5年度にかけて一人一台に向けての整備を計画していたが、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策の補正予算による令和2年度限りの補助を活用し、一人一台に向けて整備を進めていくとともに、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現する。

## 2 学校別整備状況及び今後の整備計画

学校名	人数	iPad					電源キャビネット		備考	
		R1.5.1 整備 済数	整備率 人/台	未整 備数	補助 対象	市単 独	補助 対象	市単 独		
小学校	小笠東小	228	55	4.15	173	152	21	4	1	
	小笠南小	148	33	4.48	115	99	16	3	0	
	小笠北小	401	66	6.08	335	267	68	7	2	
	六郷小	449	75	5.99	374	299	75	8	2	
	内田小	218	40	5.45	178	145	33	4	1	
	横地小	118	30	3.93	88	79	9	2	1	
	加茂小	440	70	6.29	370	293	77	8	2	
	堀之内小	390	60	6.50	330	260	70	7	2	
	河城小	263	55	4.78	208	175	33	5	1	
中学校	岳洋中	414	108	3.83	306	276	30	7	1	
	菊川西中	544	105	5.18	439	363	76	10	1	
	菊川東中	345	105	3.29	240	230	10	6	0	
計	3,958	802	4.94	3,156	2,638	518	71	14		

※1台/3人は地方財政措置算定分であるため補助対象は2台/3人となる。

## 3 概算整備費用

### ①補助対象事業費分

iPad 購入	2,638台 × 44,600円/台 × 1.10 = 129,420,280円
iPad 設定	2,638台 × 35,000円/台 × 1.10 = 101,563,000円
電源キャビネット購入	71台 × 550,000円/台 × 1.10 = 42,955,000円
補助対象計	273,938,280円

※補助金（端末：45,000円/台、電源キャビネット：250,000円/台 × 1/2）127,585,000円

### ②市単独事業分

iPad 購入	単独	518台 × 44,600円/台 × 1.10 = 25,413,080円
iPad 設定	単独	518台 × 35,000円/台 × 1.10 = 19,943,000円
電源キャビネット購入	単独	14台 × 550,000円/台 × 1.10 = 8,470,000円
単独計		53,826,080円
支出計（①+②）		327,764,360円

## 4 一人一台端末の活用構想

### ① 管理について

- (1) 小学校1年生及び2年生 . . . . . 学校にてキャビネット保管
- (2) 小学校3年生以上 . . . . . 個人、家庭管理
  - ア 充電器を貸与し、家庭で100%充電を毎日行う
  - イ 通学カバンに入れて登校し、カバン又は机の中に個人保管
  - ウ 家庭での使い方の約束を本人と保護者でかわす
  - エ 転出時、卒業時に返却

### ② 目指す効果について

- (1) 「きくがわ21世紀型授業」が一層広がり、学力が向上する
- (2) 特別な教育的支援を要する子供の学びの支援となる
- (3) 将来的には個別最適化された子供の学びにつながる
- (4) 子供の学びの姿や学校生活について保護者の理解が進む
- (5) 教職員の働き方改革が進む

### ③ 想定される活用例について

- (1) Google社が提供する無料サービスを活用することにより、教師と子供との双方向のデータのやり取りが可能となる
  - ア 宿題の配付・回収をオンラインで行う
  - イ 学校だよりなどの配布物を端末への配付とする
  - ウ アンケートの入力、回収、自動集計を行う
  - エ 一つのデータを離れた子供同士が共同編集する
  - オ カレンダー機能を共有することで、日々の予定を子供が管理する
  - カ 自動採点機能がある小テストを配信し、子供のペースで学ぶ
- (2) 授業における活用の幅が広がる
  - ア 端末を教室に運んだり、子供に配ったりする手間がなくなる
  - イ 印刷して配付していた資料の多くを端末配付できる。
  - ウ 配付された資料を拡大して調べたり、考えを書き込んで発表したりすることが個人ベースで可能となる
  - エ 自分の学習の履歴を端末又はクラウド上に保管でき、学びの振り返りが容易となる
  - オ 個人のノートに書かれたものを教室内で共有したり、子供同士でデジタル情報として効率的に交換し合ったりする
  - カ 家庭学習と授業を連動させやすくなる

(3) 特別な教育的支援を要する子供への活用によって学びが支援される

ア 翻訳機能やふりがな機能により、日本語の指導が必要な外国人の子供への支援になる

イ 学習支援向けに開発されたアプリを利用することで、個人のペースで学習が進む

ウ 黒板の情報をうまくノートに処理できない子供がカメラ機能を使って補う

エ 不登校の子供に学校の様子を動画等で伝えられる

#### ④ 今後の研究について

(1) 学習者用デジタル教科書の内容と効果について

(2) 学習者の学習状況に応じて出題されるドリル系アプリについて

(3) 紙ベースで保護者が購入してきた補助教材としての資料集のデジタル化について

(4) 端末の更新に備えた端末代金の保護者負担について

(5) 校務用クラウドを活用した実践事例の学校の枠を超えた情報共有について